

B 女性の社会進出

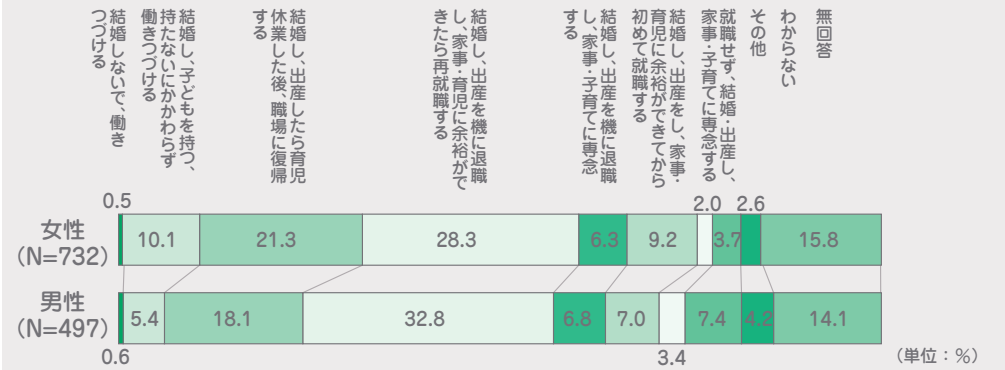
① 女性の生き方について

女性は『就業継続』を、女性の望ましい生き方と考えている

男性は、女性の望ましい生き方として「出産を機に退職し、家事・育児に余裕ができれば再就職する」という意見が多くなっています。女性は再就職よりも、「結婚しないで、働きつづける」「結婚し、子どもを持つ、持たないにかかわらず働きつづける」「育児休業した後、職場に復帰する」を合わせた『就業継続』が望ましいとする意見が多くなっています。

子どもが小さい間は、女性は子育てに専念するという意識の背景には、子どもが3歳になるまでの間は母親が家庭で子育てをした方がよいといういわゆる「3歳児神話」や「男性は仕事、女性は家庭」という性別役割分担の考え方があります。女性も男性も、仕事と家庭のバランスをとりながら、子育てをすることは、子どもにとっても大切です。

■女性の生き方について、どのような生き方が望ましいと思われますか。

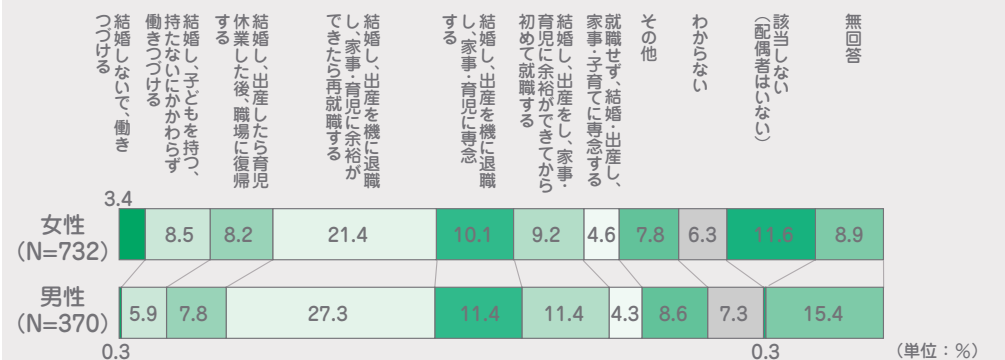


■女性の実際の生き方は、「再就職」が多い

女性の実際の生き方は「出産を機に退職し、家事・育児に余裕ができれば再就職する」が、最も多くなっています。『就業継続』は、3割を超える女性が望ましいとしているのに対し、現実には継続して就業している女性は約2割になっています。継続して働きたいと思っても、実際にはできていないということになります。

性別役割分担意識の変革とともに、社会全体の就業環境についても見直しが必要です。子育てをしながら働き続けるためには、子どもの保育時間や、急病のときの対応、勤務時間の短縮や育児休業が取得しやすい環境などの整備が必要です。女性が主に育児を担いながら仕事をするというのはかなりの負担となり、働きつけにくいという現実があるようです。

■女性の生き方について、あなた(女性)の実際の生き方は、次のどれにあたりますか。(男性の方は、あなたの配偶者についてお答えください。)



② 女性が働き続けるために

女性が働き続けるために必要なことは、「夫や家族の協力」と「保育施設や保育内容の充実」

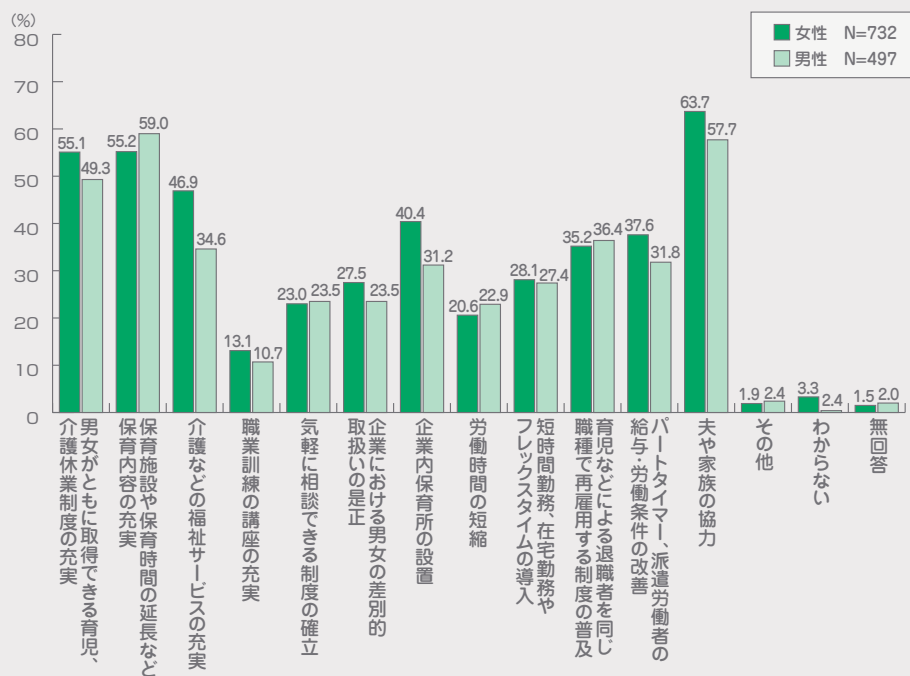
子育てと介護は、女性が働き続けるために解決しなければならないことのひとつです。

女性が働き続けるために最も必要と考えられていることは、「夫や家族の協力」と「保育施設や保育内容の充実」です。ついで「男女がともに取得できる育児、介護休業制度の充実」となっています。「夫や家族の協力」を求める意見は、女性の方が多くなっています。

男性に比べて、女性がより多く必要と感じていることは「介護などの福祉サービスの充実」や「企業内保育所の設置」です。

男性が育児や介護に積極的に関わることで、男性も女性も子育てや介護をしながら仕事をすることができるような制度や設備、就業環境を整えることが重要です。

■女性が働き続けるために、今後、どのようなことが必要だと思いますか。



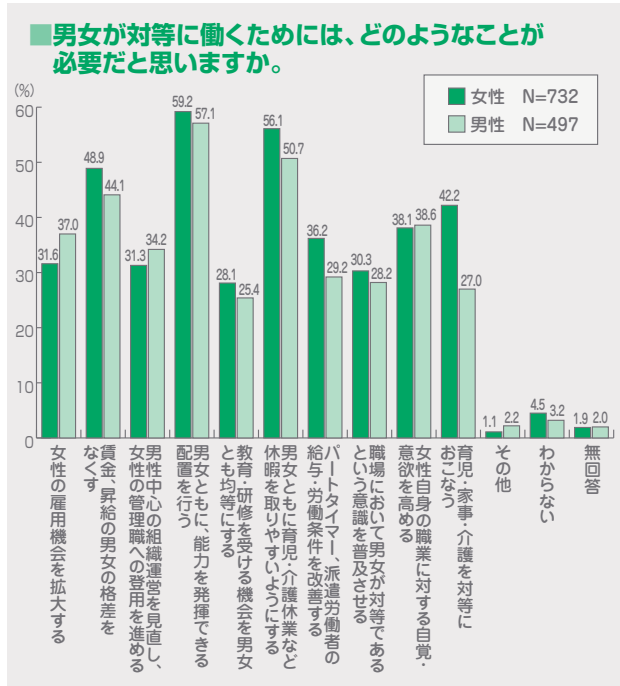
③ 男女が対等に働くために

「男女ともに、能力を発揮できる配置」が必要

男女が対等に働くためには「男女ともに、能力を発揮できる配置を行う」ことが必要だという考え方が最も多くなっています。性別に関わらず、「個」として平等な評価に基づいて、能力を十分に発揮できる職務に就くことが求められています。

ついで「男女ともに育児・介護休業など休暇を取りやすいようにする」という意見が多くなっています。仕事と子育て・介護の両立は男性にとっても女性にとっても重要な課題となっています。男性が育児・介護休業を取得し、子育て・介護に主体的に関わるためには、企業の理解と協力が必要です。

男女の意識の差が大きいのは「育児・家事・介護を対等におこなう」で、女性が42.2%に対し、男性は27.0%です。家庭の中での男性の意識改革をすすめ、男性が積極的に育児・家事・介護に関わっていく姿勢を持つことも重要です。



④ 仕事をしたいと思ったときに気がかりなこと

女性は「年齢制限」、男性は「自分のしたい仕事に就けるか」

現在、収入を得る仕事に就いていない人で、就業を希望する人は女性も男性も3割を超えています。特に30歳代、40歳代の女性の就業を希望する割合が高くなっています。

就業を希望するとき最も気がかりとなることは、女性では「年齢制限」、男性では「自分のしたい仕事に就けるか」となっています。

「家事、子育て、介護との両立ができるか」と「保育所（園）、学童保育を利用できるか」を多くの女性が気がかりにしています。しかし男性でそれらを回答した人はなく、「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識がまだまだ男性に根強く残っていると言えるでしょう。

